

2005 年 1 月 17 日 発行

2026 年 3 月 26 日 改訂

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: ケミカルペースト
品番	: No. FS100-01
会社名	: 白光株式会社
住所	: 大阪市浪速区塩草 2 丁目 4 番 5 号
担当部門	: 営業部
電話番号	: 06-6561-1574
FAX 番号	: 06-6568-0821
メールアドレス	: cs@hakko.com
推奨用途	: こて先復活剤
使用上の制限	: 推奨用途以外の用途へ使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

爆発物	: 分類できない
可燃性ガス	: 区分に該当しない（分類対象外）
エアゾール	: 区分に該当しない（分類対象外）
酸化性ガス	: 区分に該当しない（分類対象外）
高压ガス	: 区分に該当しない（分類対象外）
引火性液体	: 区分に該当しない（分類対象外）
可燃性固体	: 分類できない
自己反応性化学品	: 分類できない
自然発火性液体	: 区分に該当しない（分類対象外）
自然発火性固体	: 分類できない
自己発熱性化学品	: 分類できない
水反応可燃性化学品	: 分類できない
酸化性液体	: 区分に該当しない（分類対象外）
酸化性固体	: 分類できない
有機過氧化物	: 分類できない
金属腐食性物質	: 分類できない
鈍性化爆発物	: 分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	: 区分 4
急性毒性（経皮）	: 分類できない
急性毒性（吸入：気体）	: 区分に該当しない（分類対象外）

急性毒性（吸入：蒸気）	：	分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	：	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	：	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	：	区分 2A
呼吸器感作性	：	分類できない
皮膚感作性	：	分類できない
生殖細胞変異原性	：	分類できない
発がん性	：	分類できない
生殖毒性	：	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	：	区分 3：気道刺激性
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	：	区分 1：肺
誤えん有害性	：	分類できない
環境に対する有害性		
水生環境有害性 短期（急性）	：	分類できない
水生環境有害性 長期（慢性）	：	分類できない
オゾン層への有害性	：	分類できない
GHS ラベル要素		
絵表示またはシンボル	：	
注意喚起語	：	危険
危険有害性情報	：	飲み込むと有害 皮膚刺激 強い眼刺激 呼吸器への刺激のおそれ 長期にわたる又は反復ばく露による肺の障害
注意書き		
安全対策	：	使用前に取扱説明書を入手すること。 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気を吸入しないこと。 取り扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。 指定された個人用保護具を使用すること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 換気が不十分な場合:呼吸用保護具を着用すること。
応急措置	：	皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
保管	：	容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。
廃棄	：	内容物/容器を国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物
化学名又は一般名 : ケミカルペースト

成分及び濃度又は濃度範囲

成分	含有量 (%)	CAS 番号
すす粉	50%	7440-31-5
固形パラフィン	7%	8002-74-2
脂環族アミン臭化水素酸塩	20%	既存化学物質 社外秘
脂肪族アミン臭化水素酸塩	2%	既存化学物質 社外秘
ペテロラタム	21%	8009-03-8

4.応急措置

吸入した場合 : 被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
直ちに医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、又は取り去ること。
直ちに医師に連絡すること。
皮膚を速やかに洗浄すること。
皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。
医師の手当て、診断を受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合 : 直ちに医師に連絡すること。
水で 15 分以上注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
医師の手当て、診断を受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。
直ちに吐出し、その後必要に応じて医師の手当てを受ける。
口をすすぐこと。
無理に吐かせないこと。
医師の手当て、診断を受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状 : 皮膚に触れた場合：皮膚を刺激する。かぶれ、ただれ、発赤。
吸入した場合：蒸気とミストは肺、気道上部を刺激する。
眼に入った場合：粘膜を刺激する。

5.火災時の措置

適切な消火剤 : 特殊粉末消火剤、乾燥砂

使ってはならない消火剤 : 他の消火剤

火災時の特有の危険有害性 : 消火に棒状水を用いてはならない。火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
強酸化剤と反応する。

特有の消火方法 : 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防処置 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6.漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
- :
- 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
適切な防護衣を付けていない時は、破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
- 環境に対する注意事項
- :
- 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
環境中に放出してはならない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材
- :
- 漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。
危険でなければ漏れを止める。
- 二次災害の防止策
- :
- 全ての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙・花火の禁止）
床面に残るとする危険性があるため、こまめに処理する。

7.取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策
- :
- 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
- 局所排気・全体換気
- :
- 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱注意事項
- :
- 使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
眼、皮膚に付けないこと。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
- 接触回避
- :
- 「10.安全性及び反応性」を参照。

保管

- 安全な保管条件
- :
- 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。
施錠して保管すること。
容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
禁煙。
- 避けるべき保管条件
- :
- 酸化剤から離して保管する。
- 安全な容器包装材料
- :
- 密閉式の破損しない容器を使用する。

8.ばく露防止及び保護措置

許容濃度

日本産業衛生学会	:	設定されていない
ACGIH 勧告値	:	TLV-TWA 2mg/m ³ （すず粉・固形パラフィンとして）

設備対策

- :
- この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。
高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。
密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用しなければ取扱ってはならない。
気中濃度を推奨された管理濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。

保護具

- 呼吸用保護具
- :
- 保護マスクを着用する。
- 手の保護具
- :
- 保護手袋を着用する。
- 眼、顔面の保護具
- :
- 保護メガネを着用する。
- 皮膚及び身体の保護具
- :
- 必要に応じて作業着を使用する。

9.物理的及び化学的性質

物理状態	: 不透明性半固体状物質
色	: 灰色
臭い	: なし
融点・凝固点	: 40℃以上
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	: データなし
引火点	: 180℃以上
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール／水分配係数 (log 値)	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

10.安定性及び反応性

反応性	: 空気に触れると僅かに潮解する。
化学的安定性	: 通常の保管・取扱い条件で安定。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤、酸類、強塩基類、ハロゲン、硫黄等と反応する。
避けるべき条件	: 熱源、空気、水。
混触危険物質	: 強酸化剤、酸類、強塩基類、ハロゲン、硫黄等
危険有害な分解生成物	: 加熱すると分解し、有害なヒューム(臭化水素)、一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

11.有害性情報

急性毒性（経口）	: H302 飲み込むと有害
急性毒性（経皮）	: 分類できない
急性毒性（吸入：気体）	: GHS 定義による気体ではない。
急性毒性（吸入：蒸気）	: 分類できない
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	: 分類できない
皮膚腐食性／刺激性	: H315 皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: H319 強い眼刺激
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 分類できない

生殖細胞変異原性	:	分類できない
発がん性	:	分類できない
生殖毒性	:	分類できない
生殖毒性・授乳影響	:	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	:	H335 呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	:	H372 長期にわたる又は反復ばく露による肺の障害
誤えん有害性	:	分類できない

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）	:	分類できない
水生環境有害性 長期（慢性）	:	分類できない
生態毒性	:	分類できない
残留性・分解性	:	分類できない
生体蓄積性	:	分類できない
土壌中の移動性	:	分類できない
オゾン層への有害性	:	分類できない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	:	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
汚染容器・包装	:	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号	:	該当しない
品名	:	該当しない
国連分類	:	該当しない
容器等級	:	該当しない

国内規制

海上規制情報	:	非危険物
航空規制情報	:	非危険物
陸上規制情報	:	火災予防条例の規定に従う（固形パラフィン）。

特別の安全対策

:	収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。 収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。 運搬中、内容物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、最寄りの消防機関その他の関係機関に通報すること。
---	---

15.適用法令

労働安全衛生法	:	表示・通知対象物質	令別表第 9 の 15（すず及びその化合物） 規則別表第 2 の 583（固形パラフィン） 規則別表第 2 の 581（ペトロラタム）
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	:	該当しない	
毒物及び劇物取締法	:	該当しない	
消防法	:	指定可燃物	可燃性固体

16.その他の情報

出典 製造業者の SDS。

本データは現時点で入手できる情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。記載内容は通常の使用状態におけるものであり、危険有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、使用におかれましては、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご使用下さい。

改訂履歴

改訂日	内容
2005 年 1 月 17 日	初版発行
2010 年 10 月 26 日	組織変更による部署名変更
2012 年 7 月 25 日	GHS タイプへ変更
2015 年 11 月 26 日	SDS へ変更
2016 年 4 月 22 日	比重、溶解データ追加
2019 年 8 月 26 日	適用法令：消防法を追加
2021 年 5 月 24 日	誤記修正
2022 年 11 月 8 日	JIS Z 7252（2019）、JIS Z 7253（2019）に対応。 2021 年 10 月 20 日公布 2023 年 4 月 1 日施行 化管法政令改正に対応。
2023 年 9 月 29 日	フォーマット変更
2024 年 10 月 21 日	誤記修正
2026 年 3 月 26 日	誤記訂正。 労働安全衛生法：令和 8 年・令和 9 年対応済み。